

平成25年度前期 授業改善アンケート 質問項目

	no.	設 問	① ←→ ⑤
学 生	1	シラバスで授業内容を確認しましたか	確認しなかった ～ 十分確認した
	2	教室では授業に積極的に取り組みましたか	取り組まなかった ～ 取り組んだ
	3	あなたの出席状況を評価してください	良くない ～ 良好
	4	授業外で学習(レポートや課題を含む)をしましたか	しなかった ～ 十分した
授 業 内 容 教 え 方 等	5	授業はシラバスに沿って行われましたか	シラバスと異なる ～ シラバスに沿っていた
	6	授業内容を理解できましたか	理解できなかった ～ 十分理解できた
	7	説明が明快でしたか	分かりにくい ～ 明快
	8	話は良く聞き取れましたか	聞き取りにくい ～ 聞き取れた
	9	板書、OHP・PowerPoint等は授業を理解する上で効果的でしたか	改善して欲しい ～ 効果的
	10	配布資料、教材等が効果的でしたか	改善して欲しい ～ 効果的
環 境 ・ 設 備 等	11	学習環境(人数、部屋の広さ等)は良好でしたか	良好でない ～ 良好
	12	参考書等が図書館に揃っていますか	不足 ～ 揃っている

1. 概評

すべての項目について全学平均以上の数値であり、総体的には良好な結果である。本学科は例年、すべての項目が、4.1以上の高数値なので、これ以上、数値を上げることは難しい。維持できていることを、まずは喜ぶたい。

しかしながら、細目を見ると、学科平均値は昨年度と同じでも、数値分布では下降傾向を示すものも見られる。

また、学科内平均を下回る科目の中には必修科目も含まれている。毎年変化する学生の質にも目配りし、対策の検討を進言する。さらに、一部科目に低い数値が認められる。早急にその原因を特定し、対策を講じる。

（上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。）

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4≤	評価と対策
1	4.1	0	0	0	0	25	84	【学生】 学科平均は、良好な数値を維持している。 ただし、概評でも触れたように、no2(教室内での積極的取り組み)、no.4(授業外の自主的学習)に下方回答がやや増えている。日頃から各授業において、「単位の実質化」について、徹底する必要がある。
2	4.2	0	0	0	1	27	81	
3	4.5	0	0	0	0	1	108	
4	4.2	0	0	0	6	21	82	
5	4.2	0	0	0	1	24	84	【授業[内容]】 学科平均は、良好な数値を維持している。 ただし、概評でも触れたように、no5(シラバスに沿った授業展開)、no.6(授業内容の理解)、いずれも下方回答がやや増えている。今年度は、全学的に学生が増え、例年と受講生の質が大きく異なる例も散見される。そのあたりの見極めも必要かと思われる。
6	4.1	0	0	0	7	30	72	
7	4.3	0	1	0	5	23	80	【授業[教え方等]】 学科平均は、良好な数値を維持している。 中でも no.9(板書・PowerPoint)、no.10(配付資料・教材)については、上方の回答が増えた。分かりやすい授業のための工夫が、学生にも認められていると言える。 一方で、no.7(説明の明快さ)、no.8(話の聞き取りやすさ)については、下方の回答がやや増えている。良い資料・教材、分かりやすい板書・PowerPoint を提示していながら、なお学生はわかりやすさを求めていることがうかがえる。 なお、この no.7、8に数値の低い科目が見られる。早急にその原因を特定し、対策を講じる。
8	4.3	0	1	1	1	22	84	
9	4.1	0	0	1	7	25	73	
10	4.3	0	0	0	3	18	87	
11	4.3	0	0	1	4	18	86	【環境・設備等】 今年度は全学的に学生が増えていることもあり、受講生が例年より増えた科目も多い。また、早い梅雨明け、猛暑の中での授業となり、no.11(学習環境)への不満となっているようである。 No.12(参考図書)は、昨年まで周知が徹底して上昇傾向であったが、今回、下方回答が増えた。手間を惜しまず、続けて周知することが大切である。
12	4.1	0	0	0	2	37	70	

3. 今後の方針

上記に挙げたように、今回は、近年と少し違う傾向が見られた。

数値の高さに安心するのではなく、下方回答を減らしていくよう、まずは、学科教員の一人一人が結果を丁寧に確認する。さらに、情報を共有するべく、後期はじめの非常勤懇談科会で、非常勤の先生も交えて学生の様子、授業での工夫を話し合う機会を設ける。

1. 概評

学科平均が全体平均より上回っているものが 12 項目中 10 項目 (No.1, 2, 4, 5, 6, 7, 9, 10, 11, 12)、同じ数値が 2 項目 (No.3, 8)、であった。全体平均より下回った項目がなかった点を考慮すると、今学期の評価は大変良好だったと言える。

【学生】

4 項目中 3 項目が全体平均より上回っており、1 項目 (No.3) が全体平均と同じ数値となっている。この項目は、他の項目と比較すると数値の伸びが悪いので、継続して改善を図りたい。

【授業【内容】】

2 項目とも、全体平均より上回っている。ここ数回概ね良好の評価を得ることができており、学生のニーズや期待値とうまく合っているのではないかと考えられる。

【授業【教え方等】】

4 項目中 3 項目が全体平均より上回っており、1 項目 (No.8) が全体平均と同じ数値となっている。但し、全て 4 ポイントを超えており、比較的良好な評価を得ていると言える。今後も更に効果的な授業運営を目指していきたい。

【環境・整備等】

2 項目とも、全体平均を上回っており、平均 4 ポイントを超えている。以前はポイントが低かった「図書館利用」も、ポイントが伸びてきている。今後も継続して改善を進めていきたい。

(上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。)

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までの比較で記述する。)

no	学科平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5≤ <3	3≤ <3.5	3.5≤ <4	4≤	評価と対策
1	4.0	0	0	0	12	61	86	【学生】 ・No.1 は、前年度と比較すると 0.2 ポイント上昇している。授業内での「シラバス確認」が繰り返されているものと思われる。 ・No.2 は、前年度と比較すると 0.1 ポイント上昇している。学生の積極性が出て来ているのではと思われる。 ・No.3 は、前年度と比較すると 0.1 ポイント上昇している。 ・No.4 は、前年度と比較すると 0.1 ポイント上昇している。No.2 の設問と合わせて、今後も学生の自主的な学習を促す活動に取り組んでいきたい。
2	4.2	0	0	0	2	32	125	
3	4.4	0	0	0	1	10	148	
4	4.2	0	0	0	1	30	128	
5	4.2	0	0	1	2	29	127	【授業【内容】】 ・No.5 と No.6 は、前年度と比較すると、どちらも 0.1 ポイント上昇している。概ね良好の結果と言える。 ・但し、No.6(授業の理解)の回答に分散傾向が見られ、比較的低い数値も見られるので、継続してこの点の更なる改善に取り組んでいきたい。
6	4.2	1	0	1	14	26	117	
7	4.2	1	0	5	8	28	117	
8	4.2	1	0	3	9	23	123	
9	4.1	1	0	4	7	27	120	【授業【教え方等】】 ・これら 4 つの項目は、前年度の結果と比べて、No.8 と No.9 が同じポイントで、No.7 と No.10 は 0.1 ポイント伸びている。全て 4 ポイントを超えているので、概ね良好の結果と言える。 ・但し、これら 4 つの設問に対する回答にも、分散傾向が見られる。特に、3 ポイント以下の回答も比較的多く見られるので、改善が必要かと思われる。今後とも、大学並びに学科の FD 活動を通して、先生方に研修に参加していただく様に促していきたい。
10	4.2	0	1	3	6	25	124	
11	4.3	0	0	0	3	22	134	
12	4.0	0	0	1	6	60	92	
								【環境・設備等】 ・No.11とNo.12は、前年度と比較すると、どちらも 0.1 ポイント上昇している。平均 4 ポイントも越え、概ね良好の結果と言える。 ・特に No.12 の図書館利用についてのポイントが徐々に上昇している。これは、良い結果と考えている。但し、もう少し改善の余地があるかと思われるので、今後も継続して対応していきたい。

3. 今後の方針

- 学科平均を前年度の結果と比較すると、**0.2** ポイント上昇した項目が **12** 項目中 **1** 項目あり、**0.1** ポイント上昇した項目が **9** 項目あり、残り **2** 項目が同じポイントと言う結果であった。全て **4** ポイントを上回っているので、概ね良い結果であったと言えるかとは思われるが、各項目の伸びは昨年度と比較してもそれ程大きくない点が気になっている。
- 加えて、昨年度とポイントが同じであった項目が【授業[教え方]】に関していることが、少々懸念される。先にも記載したが、項目の内容を再度確認し、大学主催の授業公開、FD 講演会、FD サロン、そして学科実施の研究会等を実施し、一層の改善を目指していきたい。その為には、上記の活動への先生方の積極的な参加を更に促していきたい。学科として、もう少し全体的な評価が上がるように、今後も学科の先生方を巻き込んで授業改善に取り組んでいきたいと考えている。

1. 概評

前期解説科目のうち、98科目（複数教員担当授業は1科目とする）でアンケートを実施した。学科平均と全体平均を比較すると、全体平均を上回る項目が2（No.1、No.6）、やや下回る項目が2（No.11、No.12）、全体平均と同じ項目が残り8項目であった。前年度に比べて上回る項目が増え、下回る項目が半減した。特に、学科の課題としていた積極性や授業外での学習の取組のポイントが全体平均にまでポイントが上がったことは、各授業での改善が行われ、学生にも自主的な学習の取組が徐々に根付いたことを伺わせる。

その一方で、教室環境や参考図書などの施設面では従来の問題が改善されていないことが明らかとなった。授業形式、受講者にあった教室の確保、人数が多くなる他学科履修科目の見直しを行って行きたい。図書の充実については図書館へ積極的に要望を出すよう教員が努力すると共に、学生にも希望を出すよう呼びかけて行きたい。

（上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。）

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4≤	評価と対策
1	4.0	0	0	1	0	39	52	【学生】 No.1 は全体平均を上回ることができ、学生の中に現在の履修登録方法が定着してきたことを伺わせる。 No.2・3・4 は従来全体平均を下っていた項目であるが、いずれも前年度よりポイントを上げ、全体平均と同じポイントとなった。学生の積極性や授業外の学習については、各授業で学習を促す課題を出す取組により改善されたものと思われる。 また、1年生必修の歴史文化基礎は自主的な研究をする指導に力を入れており、2年生以上の在学学生もすべて歴史文化基礎を受講した学生になったことも今回の結果につながったものと思われる。今後も継続して指導を続けて行きたい。
2	4.1	0	0	0	3	29	60	
3	4.4	0	0	0	0	3	89	
4	4.1	0	0	0	7	26	59	
5	4.1	0	0	0	1	24	67	【授業[内容]】 No.6 が全体平均より0.1ポイント上回った。また、No.5 は前年度よりポイントを上げて全体平均と同じになった。このことは、各授業で改善が行われ、シラバスに沿った授業運営がスムーズに進んだことを伺わせる。
6	4.1	0	0	0	7	26	59	
7	4.1	0	0	0	7	24	61	
8	4.2	0	0	1	2	27	62	【授業[教方等]】 すべての項目で全体平均と同じであった。前年度に比べてNo.6 はポイントを上げている。 No.8 でポイントが低い授業があり、担当者に改善を促したい。 今年度より担当者の代わった科目で全体平均を下回る項目が見られたため、担当者に状況を確認し改善を促した。
9	4.0	0	0	0	7	28	56	
10	4.1	0	0	0	2	26	63	
11	4.1	0	0	1	5	18	68	【環境・設備等】 前年度に引き続き、共に全体平均を0.1ポイント下回った。講義に実習室を利用している場合、必修や他学科の履修を認めている大人数科目での評価が低くなっている。 図書については、学生にも図書館に購入希望を出すよう指導したい。
12	3.8	0	0	0	8	52	32	

3. 今後の方針

本学科の学生は、授業を真面目に取り組むが授業外での学習に弱い点が、ここ数年の課題であった。そこで、改善すべく下記のような指導を行ってきた。今回のアンケートでポイントが上がったことは、この取組の成果が少しずつ出てきたものとする。そこで、この指導を継続し、さらなる学生の自主性を引き出すよう取り組んでいきたい。

- ① 1年生の必修授業(『歴史文化基礎』)で取り組むそれぞれのテーマについて、自分で野外調査し、その調べたことを整理し、授業で報告する。というスタイルを徹底し、自主的・主体的な学習と学ぶ姿勢を養っていく。
- ② 2年生以上では、必修授業での課題の徹底、ゼミでの夏期研修旅行、海外研修プログラムの参加、昭和女子大学文化史学会への参加などから、自主的・主体的な学習と学ぶ姿勢を養う。
- ③ シラバスに沿った授業展開を各教員に働きかける。
- ④ 授業公開を実施し、よりよい授業を目指す。

なお、今回の結果(評価の低かった2項目)を踏まえ

- ① 講義形式に対応した教室の確保に努める。
- ② 参考図書の充実に向けて教員・学生共に図書館へ図書の購入希望を申請する。

1. 概評

前期開設科目のうち、148 科目でアンケートをとった。全体平均をしたまわるのは no.1, 2, 4, 5, 12 であった。シラバスに関連する設問で評価がひくく、原因については「評価と対策」欄にのべる。とはいえ前年度から改善がみられ、今後この趨勢を維持するようつとめる。教授法を問う設問は、逆にすべてが全体平均をうわまわる。なお、設問 4 の結果から自習時間のすくなさうかがわれる。予習・復習の奨励・義務化、アルバイトの自粛をうたえるなどして、自学自習の習慣が身につくよう指導する。

（上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。）

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科 平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	3.8	0	0	2	15	80	48	[学生] 前期比／前年度比はつぎのとおり（以下同様）。no.1 +0.1/+0.2, no.2 ±0/-0.1, no.3 +0.1/+0.1, no.4 ±0/-0.1. 授業での積極性(no.2)と授業外の学習(no.4)が、それぞれ前年度比-0.1 となった。学科教員に周知し、今年度後期の結果がどうなるか注意し、対策をねる。国際学科の主要科目である外国語は教科書に目次があるためか、シラバス閲読率が講義科目よりひくく、学科平均をおしさげる一要因となっているものと考えられる。
2	4.1	0	0	0	7	48	90	
3	4.4	0	0	0	1	11	133	
4	4.1	0	0	0	4	41	100	
5	4.1	0	0	0	4	49	92	[授業[内容]] no.5 ±0/+0.1, no.6 +0.1/+0.1. 全体平均とくらべると、それぞれ±0, +0.2. シラバスの閲読をさらに奨励して、授業内容を理解する学生の増加にむすびつける。
6	4.1	0	0	0	6	51	88	
7	4.2	0	0	0	8	33	103	[授業[教え方等]] no.7 +0.1/±0, no.8 +0.1/±0.1, no.9 +0.1/+0.2, no.10 ±0/±0. なお、パソコンを利用した e-learning の講義は、これらの設問にそぐわないため、0 を記入させたため、平均値をおしさげたのに、すべての設問で全体平均をうわまわった。平均より極端にひくい科目はなく、教員の努力が成果をあげているものと考えられる。
8	4.2	0	0	1	2	31	110	
9	4.1	0	0	0	5	53	86	
10	4.1	0	0	0	5	42	97	
11	4.2	0	0	0	3	27	115	[環境・設備等] no.11 +0.1/±0, no.12 ±0.1/+0.1. 全 148 科目の平均受講者数は 29.5 人であり、学習環境は良好といえよう。今後新校舎が完成すれば、大人数の受講者も収容できるようになり、環境はさらに改善されるものと思われる。
12	3.9	0	0	0	14	76	54	

3. 今後の方針

- ① 必修のボストン留学が来年度から後期に移行するにともない、初修外国語(ドイツ語、フランス語、スペイン語)の学習に十分な時間をかけられるようになる。とくにスペイン語履修者の急増に対処して、クラスを二分割することで少人数化をはかる。
- ② 留学をおえた学生の語学力を卒業まで持続的にのばすための科目群をととのえる必要がある。現状の語学力は、多くの学生が留学終了時に頂点に達したあと低減している。
- ③ グローバル人材育成推進事業により、海外の協定校がふえるにともない、留学先が多様化し、授業履修をめざす学生がふえつつある。講義科目を当該の外国語で理解するためには、基礎学力・一般常識が不可欠であり、高校卒業までにこの種の知識を充分にたくわえていない学生に対して教育を充実させなければならない。基礎ゼミの充実、基礎教育研究センターの活用を学生にPRする。

1. 概評

学科設立後、最初の授業改善アンケートであり、回答者は1年生のみである。評価は、大人数講義である必修科目の比率が高いことを背景として、多くの設問において、大学全体平均よりもやや低めとなっている。1年次においては、学科が提供する専門教育科目の全てが必修科目であり、学生の履修計画に占める学科必修科目の割合は85%以上、スキル系科目と経済・経営系科目のコマ数比率は7:4である。授業への参加状況は良好であるが、英語やコンピュータ、基礎ゼミ等のスキル系科目は履修者数30名程度（演習型）、経済・経営系科目は履修者数80～160名程度（講義型）と2分化しており、授業内容の理解、話の聞き取りやすさ、教室環境の快適さを中心に、評価は総じて前者が高くなっている。後者においては、討論や発表、課題演習を中心とした講義運営を試みているが、教室定員上限で行われている授業環境の改善と同時に、学生による事前学習と発表のサイクル・頻度を工夫するなどして、理解度の向上を図りたい。

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいっところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科 平均	1≦ <2	2≦ <2.5	2.5 ≦ <3	3≦ <3.5	3.5 ≦ <4	4≦	評価と対策
1	3.2	0	0	12	21	7	0	[学生] 出席状況、授業外の学習については概ね良好であるが、必修科目として当該講義を履修する意味を理解し、授業への積極的な参加に結び付ける工夫が必要である。特にシラバスの閲読については、スキル系科目、講義系科目共に数値が低く、学期始めのガイダンスや各講義の場を通じて、シラバスの意義を繰り返し周知し、計画的な学習姿勢の動機づけにつなげたい。
2	3.8	0	0	1	6	13	20	
3	4.4	0	0	0	0	0	40	
4	4.0	0	0	0	0	18	22	
5	3.7	0	0	1	7	20	12	[授業[内容]] 1年次の専門教育科目は全て必修科目であることもあり、学生にシラバスの内容を確認する習慣を促す閲読推進と連動して、受講動機の意識づけを図っていきたい。
6	3.8	0	1	1	7	14	17	
7	3.9	0	1	1	5	13	20	[授業[教え方等]] アンケート内の意見においても、学生は授業内容の明瞭さ、わかりやすさを求めていることがうかがえる。パワーポイントなど資料の利用法、対話型や発表型講義に対しての学生側の理解、期待は高く、一定の評価を得ていると考える。 一方、大人数講義においては、学生の理解度や取り組み姿勢の面で2分化が認められ、評価が3点台後半に留まった背景ともなっている。 学科として、対話型、発表型、課題演習型など、各学問領域の特性に沿ったアクティブな講義運営を推進すると同時に、教室環境は、上述のような講義上の工夫を行う上で大きな障害となることから、その改善にも取り組んでいきたい。
8	3.9	0	0	2	4	13	21	
9	3.8	0	0	1	8	14	17	
10	3.9	0	0	0	7	13	20	
11	3.9	0	0	1	9	12	18	[環境・設備等] 講義型科目では、教室定員上限の環境下で教室前方左側のスクリーンが全く見えない区画が発生したこと、通路が狭く教員が学生と対話するための移動が困難であったこと、室温の上昇に伴う快適さの低下など、教室環境に関わる具体的な問題が発生した。新棟の稼働に合わせて、学習空間の快適さが改善されていくことを希望する。
12	3.6	0	0	0	15	20	5	

3. 今後の方針

1. 経済・経営系科目、英語やコンピュータなどのスキル系科目のそれぞれに教員間の対話を随時行い、目標と対応事項を定め、効果的な教授法の開発と共有を図る。
2. 経済・経営系科目においては、1 年生に対して、2 年次のボストンで英語による経済・経営科目の講義が実施されることを念頭に、学生の事前学習を前提としたディスカッションやプレゼンテーション、課題演習を今後とも取り入れ、講義時間内における学生個人ないしグループとの対話を通じた授業の理解度向上に取り組む。また、日本語と英語での専門用語の理解を促していく。
3. スキル系科目(英語)においては、TOEIC スコアの向上を意識した講義構成を図ると同時に、補習を通じたフォローアップを充実させていく。
4. FD 講演会、FD サロンへの参加を通じた新たな教授法の習得に努める。
5. 新棟の稼働にあわせ、受講者数と科目の性質に対応した教室環境(学習空間)の改善を図る。

1. 概評

いずれの設問においても、大学全体の平均と比較するとほぼ同じ評価点であり、12 問中 11 問が 4 点以上であった。本学科の前年度同学期の評価点と比較すると評価が下がった項目はなく、12 項目中 9 項目は得点が向上していた。学生の学習態度、教員の授業運営双方に改善を認めることができた。引き続き、学生への働きかけを意識しつつ、授業の改善に取り組んでいきたい。

（上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。）

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4≤	評価と対策
1	4.0	0	0	0	1	24	24	[学生] 昨年度までも高得点であった No.3(出席状況; 今期は 4.5 点)を除く 3 設問は、いずれも昨年度の評価点を上回った。学生が積極的な態度で授業に参加していたことがうかがえる。今後も学生が授業内容を事前に確認した上で、主体的に学習に臨むことを促していきたい。特に授業外での学習を意識化できるように各教員で働きかけていきたい。
2	4.1	0	0	0	1	14	34	
3	4.5	0	0	0	0	0	49	
4	4.1	0	0	0	3	16	30	
5	4.1	0	0	0	0	14	35	[授業[内容]] 2 設問とも昨年度の評価点を上回った。今後もシラバスの内容について学生と共有した上で、学生の理解を促す授業運営を心掛けていきたい。
6	4.0	0	0	1	2	21	25	
7	4.0	0	0	1	6	11	31	[授業[教え方等]] 板書、視聴覚教材、配布資料等が学生の授業理解に有効に活用されていることがうかがえた。心理学科の各教員が授業公開に積極的に参加し、日常の中でも教員相互で授業運営に関する意見交換、情報共有を行いながら、各教員が創意工夫を続けていることが評価に反映されていると考えられる。今後も引き続き授業方法の改善と向上を目指して精進していきたい。
8	4.1	0	0	2	1	13	33	
9	4.0	0	0	0	4	17	28	
10	4.1	0	0	0	1	18	30	
11	4.1	0	0	0	6	11	32	[環境・設備等] 2 設問とも昨年度同学期の評価点を上回った。図書館の蔵書については、今後も教員が参考書籍の購入依頼を積極的に図るとともに、授業内でも学生に広報することで、図書館の活用を促していきたい。
12	3.8	0	0	0	3	29	17	

3. 今後の方針

- 12 問中、11 問が 4 点以上であり、学生の授業に向かう姿勢、教員の授業運営双方ともに良好といえる。授業内容や教え方などに関しては、今後も授業公開などの機会を通して教員間の情報交換を密にし、一層授業の質の向上を目指していきたい。
- 図書館の蔵書に関しては、各教員が担当授業科目における参考書籍の購入依頼を積極的に行うとともに、学生への指導、広報を行い、学生が図書館をより活用するように促していきたい。

1. 概評

専門教育科目の中で資格関連科目が多く割合を占めていることもあり、受講動機やキャリアデザインが明確な学生が多い。そのことが、シラバスの事前確認、積極性、出席状況、授業外学習状況の高評価につながっているものと思われる。入学時のガイダンスはもちろんであるが、2年次以上の学生についてもコースガイダンスや実習室ガイダンス、国家試験ガイダンスなどで今後も学生の意欲・モチベーションの維持向上を図っていきたい。

授業内容の理解、説明の明快性、話の聞き取りやすさ、配布資料の効果に関する評価は、総じて全体平均より高めである。教室環境についても改善が見られる。しかし、板書・パワーポイントが効果的であったか及び参考図書の整備状況については授業科目によりばらつきがあり、しかも全体平均より低めである。前者については、ディスカッションが中心で板書が少ない授業であっても評価項目を残してしまったことが原因として考えられる。後者については、教員・学生ともに図書の充実のため積極的にリクエストを出すよう、ゼミ単位での取り組みを促していきたい。

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいっところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4≤	評価と対策
1	4.0	0	0	1	8	35	48	[学生] シラバスの事前確認、授業における積極性、出席状況、授業外の課題の取り組みのいずれも大学平均を上回り高評価であった。資格取得の科目が多く配置されており、受講動機の明確な学生が多いことの現れであると思われる。 授業外の学習については、従来のレポート課題の提出などのほかに、アクティブラーニングを意識して、ディスカッション・発表などを取り入れるようにしたことが奏功したかもしれない。この点については、このような形態の授業を継続実施することにより、経過をみていきたい。
2	4.2	0	0	0	3	16	73	
3	4.5	0	0	0	0	3	89	
4	4.2	0	0	0	1	19	72	
5	4.1	0	0	0	2	26	64	[授業[内容]] シラバスにそって授業が行われたか、授業内容の理解については、学科平均は 4.1 と大学平均並みであった。ただし、個別にみると平均を下回る科目もいくつかあり、それらの科目は下段の[教え方等]についても平均を下回る傾向が見られたため、授業担当者が個々に作成する改善報告書や面談等により、改善の策を考えていきたい。
6	4.1	0	0	0	7	23	62	
7	4.2	0	0	1	7	13	71	[授業[教え方等]] 説明の明快性、話の聞き取りやすさ、板書・PPT、配布資料・教材の効果的活用のいずれの項目も、大学平均を上回っており、授業担当者のプレゼンテーション力の高さや教授法の工夫が感じられる。 大学をあげて視聴覚設備（プロジェクターやマイク）を整えていただいたことも大きくかかわっているものと思われる。 今後も FD 講演会や FD サロンにできる限り参加し、Good Practice を相互に学び合い、教育活動に活かす機会を教員間で共有していきたい。
8	4.3	0	0	1	3	17	71	
9	4.1	0	0	3	7	21	61	
10	4.2	0	0	2	4	15	71	
11	4.3	0	0	0	1	15	76	[環境・設備等] 教室環境に対する評価は大学平均を上回っている。ただし、個別に見ると、実習指導や演習に関する科目の中に評価が低いものが見られる。グループワークやディスカッションがしやすい教室も整備していただけると、より効果的な授業運営ができるものと思われる。図書の整備についてはは 3.9 と低めであるが、個別にみると評価の高い科目もある。ゼミ等を中心に学生とともに専門書の充実に努めていきたい。
12	3.9	0	0	1	7	37	47	

3. 今後の方針

- ①今年度も可能な限り積極的に取り組んだ、FD 講演会や FD サロンへの参加を通じて、新しい教授法や効果的な教授法について相互に学び合い、教育活動に活かしていく。
- ②同一科目を複数教員で担当する場合、教授内容に大きな差が生じないよう、授業担当者間の連携を強める取り組みを推進する。

1. 概評

現代教養学科に対する授業評価は、数値としては例年通りあるいは例年よりやや高い数値が示されているといったところであるが、自由回答欄に「難しかったが面白い授業だった」と記述されているケースの多いことが目についた。背景として、授業公開が今年度初めて効果的に機能したことによる教員間の意見交流、新任教員の貢献、が挙げられる。H25年度から始まっている新カリキュラムの充実化のためには、好ましい傾向が見てとれた。

（上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。）

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科 平均	1≦ <2	2≦ <2.5	2.5 ≦ <3	3≦ <3.5	3.5 ≦ <4	4≦	評価と対策
1	3.9	0	0	0	12	85	54	[学生] 残念ながら、学生が授業を選択する段階でのシラバス確認で もう一つ高い数値を得られていない。必修科目が時間割の多く を占めている現状ではやむを得ないのかもしれないが、教員と 学生の前向きな緊張関係が授業の質を向上させるものであるから、 この辺りは、学期初めの教務ガイダンス等で徹底していきたい。
2	4.0	0	0	0	4	54	93	
3	4.4	0	0	0	0	12	139	
4	4.0	0	0	0	8	50	93	
5	4.1	0	0	0	0	56	95	[授業[内容]] シラバス表記と授業内容の一致はおおむね浸透しているよう である。ただ、授業内容の理解度については、学生による高い 自己評価と、教員による厳しい成績評価に、齟齬があるように見 受けられる。今後単位の実質化を図っていく中で、授業外学習 など学生への負担を多く求めている中で課題となるだろう。
6	3.9	0	0	1	17	52	81	
7	4.1	0	0	2	14	33	102	[授業[教え方等]] FD アンケートの実施が各教員の意識に浸透したことで、各教 員が確実に振り返りを積み重ねている様子がうかがえる。 教え方について、学生の期待と甚だしく異なるような低い評価 を受ける教員は特に見られない。 若干名の教員に対する評価で、板書が読みにくいという指摘 がある。達筆な教員ほどそのように評価されるのは悲しいこと であるが、授業公開などで他教員の教授法に触れていくことが必 要と思われる。
8	4.1	0	0	3	9	32	107	
9	4.0	0	0	2	18	49	82	
10	4.1	0	0	1	6	49	95	
11	4.2	0	0	0	8	27	116	[環境・設備等] 限られてはいたが、大人数授業の削減の効果はあったよう である。夏季の室内温度への苦情は非常に多い。 今年度現代教養学科は図書館とのコミュニケーションを密に するよう努めているが、蔵書改善はもう一段上の努力が必要と思 われる。
12	3.9	0	0	0	11	81	59	

3. 今後の方針

現代教養学科では、実質的に今年度から始めて「授業公開」に成果が表れてきた。

近接領域の教員間に公開対象を絞った授業公開によって、参観者が増え、授業相互の役割分担(授業内容の重複を防止するなど)などについても、教員間の話し合いの機会が増えた。

こうした作業が直ちに授業評価に反映されるわけではないが、H25年度に開始された新カリキュラムの充実には確実に寄与すると期待している。

新任教員に対する学生の評価は極めて高い。その他教員への評価にも良い影響を及ぼしているようにうかがわれる。全体としては少なくなった自由回答だが、その中でも、「難しかったが面白かった」という記述が増えている印象がある。

基本的には、現在の学科の雰囲気を持続するようにしたい。

1. 概評

全体的に4点台を超え、高水準を維持しているようである。

幼稚園教諭免許、小学校教諭免許、保育士資格を取得する学科の特性から、特に、専門科目への意識が学生にも、教員にも高い。そのことが数字に表れている。

特に、極端に低いポイントもなく、授業内容の改善は効果をあげているものとみられる。

なお、参考図書については、今後も改善につとめていく。

（上手くているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。）

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいっところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までの比較で記述する。）

no	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4≤	評価と対策
1	4.1	0	0	0	4	34	60	〔学生〕 「出席状況」については、教員も学生も日常的に意識を高く持っている結果が数字に表れている。 全体的に高水準を維持するなかで、「シラバスの確認」が、例年通り課題とされる。 「教室での積極性」については、ほぼ、すべての授業において高水準を示している。今後も学生の意識を保てるようにしたい。 「授業外の自主的な学習」については、今回も高い水準を示した。 授業外の課題については、教員によって差がある。
2	4.4	0	0	0	0	6	92	
3	4.6	0	0	0	0	1	97	
4	4.3	0	0	0	1	14	83	
5	4.2	0	0	0	2	20	76	〔授業〔内容〕〕 シラバスと授業内容の関連については例年通り、高水準を維持している。今後も努力したい。
6	4.2	0	0	0	4	17	77	
7	4.3	0	0	0	6	16	76	〔授業〔教え方等〕〕 「説明の明快さ」に関しては、教員個々に差がある。今後の学科の課題にしたい。 専門外の科目に関しては、「難しい」という意識が強いようである。
8	4.3	0	0	0	5	16	77	
9	4.2	0	0	0	5	25	67	
10	4.3	0	0	1	3	23	71	
11	4.3	0	0	0	0	19	79	〔環境・設備等〕 「参考図書を充実させてほしい」という要望があった。 しかし、この件に関しては、科目によって差がある。
12	4.1	0	0	0	2	26	70	

3. 今後の方針

① 学生に関して。

- ・受講態度、真摯な態度は非常勤講師の先生からも評価を受けている。出席状況も良好である。今後もさらに徹底させたい。
- ・授業展開の工夫等を通して、授業における積極的な発言や行動を促したい。

②授業[内容]の工夫

- ・科の性質上、実践的な内容が多いが、より専門的な、学術的な内容も取り入れた授業内容を充実させたい。

1. 概評

昨年前期と比較すると、問い3, 7, 8が－0.1ポイントで、あとは同点であった。平成22年からの傾向より概ね現状を維持していると考えられる。しかしながら、大学全体と比較すると、やや下回っており、問7, 8についてはさらに教員同士で切磋琢磨して教授法をスキルアップしていきたい。問3(出席状況)は全体平均と－0.3も異なるので、今まで以上に積極的な出席を促したい。

本学科で一番低いスコアは今回も問い 12(参考資料の整備)であった。教員からの図書の推薦を進めるとともに、各授業での積極的な図書館利用アドバイスを行っていきたい。

本学科はデザイン系の科目から哲学系自然科学系と幅広く学び、さらに実験実習系の科目が必須となっている。これらの科目間の評価差は大きい、評価の高い科目の授業運営などの工夫なども参考にしていきたい。

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいっただと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。)

no	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4≤	評価と対策
1	3.9	0	0	0	14	75	52	[学生] 平成 22 年よりスコアは徐々に上がり、すでに上げ止まった感がある。 問い 1(シラバスの確認)に関しては、日ごろから授業の中でシラバスに触れるなどしていきたい。 問い 3(出席状況)はせっかく後期に+0.1 であったのに元に戻ってしまった。今後も積極的な出席を促したい。 問い 4(授業外での学習)は、宿題も含まれることになって以来、4 点台をキープしているが、さらなる自発的な学習を促したい。
2	4.0	0	0	0	10	64	67	
3	4.1	0	0	0	8	33	100	
4	4.0	0	0	0	9	60	72	
5	4.0	0	0	1	8	61	71	[授業[内容]] 授業内容に関する 2 つの設問に関しては、問い 5, 6 ともに、全体より 0.1 低いスコアであったが、平成 22 年からみるとスコアは上昇しており、落ち着いている。
6	3.9	0	1	7	11	57	65	
7	3.9	0	0	8	10	53	70	[授業[教え方等]] スコアが 3 に満たなかった科目が数科目あり、自然科学系、哲学系、実習系が含まれており、学科の守備範囲が広いことも影響がある。 問い 6 と問い 7 は特に相関が高く、授業内容の理解度が低いことが、他のスコアにも影響を与えていることが読みとれる。その中で、教員が話し方や板書、資料などで工夫しているのが現状である。 視聴覚設備や UPSHOWA の有効利用など、授業運営にさらに工夫を加えていきたい。
8	4.0	0	0	3	9	48	81	
9	3.9	0	0	5	13	53	68	
10	3.9	0	0	3	15	61	60	
11	4.0	0	0	1	7	50	83	[環境・設備等] 学習環境に関して、教室などが狭いと言った声が上がっても、十分な広さの教室に変更できない現状がある。 図書館の整備とその利用に関しては、今後とも学生に対するアドバイスを行ってきたい。
12	3.7	0	0	1	41	68	31	

3. 今後の方針

学科の平均を平成 22 年度から見ていくと、少しずつ評価が上がっているか、あるいは現状維持であった。0.1 ポイントの上下に一喜一憂するのではなく、トータルとして学生がしっかりと力をつけられるよう、教員側もスキルを磨き、学生の自覚も促していきたい。

問い 3（学生の出席）、シラバスに関する問い 1, 5 についてのスコアが 大学全体よりも低いので、学生への声掛けや、授業内でのシラバスの確認・有効利用を図っていきたい。

図書館の利用、関連図書の充実については、今後とも参考図書の整備を続け、引き続き各授業での図書館利用アドバイスをおこなっていきたい。また、各教員による図書の推薦も積極的に行いたい。

学生の理解度が上がりにくい科目群の一部については、さらに少人数化を図り、演習に対応できる助教を付けた。しかし、一年生が予定よりも多かったこともあり、あまりこの効果が（目に見える形では）出なかったのは残念である。今後も可能である限りこの方針で、人員の配置を行ってきたい。

1. 概評

本学科の授業は、管理栄養士国家試験合格を目標の1つとした教育プログラムを組んでいる。そのため、学生にとって授業の構成や理解すべき到達点がわかりやすいものになっている。講義内容や教え方に対して学生は概ね満足しており、問題視しなければならない事象は見あたらない。一部に講義内容に対する評価点が低いものも見られるが、これはむしろ学生の学習時間の不足或いは高校生の時に化学などの基礎となる科目の学習が十分でなかったことの表れであり、入学前教育のあり方に対する問いかけなのかもしれない。

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいっただと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4≤	評価と対策
1	3.7	0	0	0	16	32	21	[学生] 講義への関心は高く、高い出席率となっている。今後もこの状況を維持することが大切である。その一方で、シラバスの確認が十分とは言えない。すなわち、授業の準備が十分できていない。改善すべき課題である。
2	4.1	0	0	0	1	23	45	
3	4.5	0	0	0	0	5	64	
4	4.0	0	0	1	7	27	34	
5	4.0	0	0	0	2	34	33	[授業[内容]] 授業内容の理解についての平均点数が低い科目が2つあり、いずれも基礎科目であった。改善を図るためには、シラバス確認の徹底と事前学習の実施促進のための指導が必要である。しかしながら上記以外のほとんどの授業が高い得点を示し、特に専門科目では質の高い授業が展開されている。特段の対応は必要性を認めない。
6	3.9	0	2	0	9	23	35	
7	3.9	0	2	1	8	21	37	[授業[教え方等]] 低得点科目が2つあり、改善すべき課題である。 しかしながら、ほとんどの科目は高い点数が配点されており、特に専門科目では、内容・教え方ともに学生の期待を満たすものであった。学科として対応しなければならない問題点等は見あたらない。
8	3.9	0	3	1	3	25	37	
9	3.9	0	0	3	4	25	37	
10	4.0	0	0	2	4	23	40	
11	4.0	0	0	1	6	21	41	[環境・設備等] 概ね良好に保たれていると考えられるが十分ではない。 実験室が狭いこと、水道の水圧が低いこと、排水管からの異臭など、建物の老朽化と関連した不都合が少なくない。改善すべき事が残されている。
12	3.8	0	0	0	7	38	24	

3. 今後の方針

管理栄養学科では、管理栄養士資格取得関連科目が多く、教育内容は多岐に及ぶ。

基礎科目も専門科目同様に管理栄養士に求められる知識・技能の習得一部を構成することを強く意識したものでなければならない。今後の方針として、教員の専門性、教育に対する情熱などを大切にしつつ、学科目標の到達を目指し、学生の望む教育の質と量を盛り込むことが求められる。

1. 概評

1～4年生が定員一杯の状態で行うのは2年目である。

全体としてみると、ほとんどの科目が資格必須もしくは領域必須になっているため、学生による科目選択の余地は、それほど大きくはない。これに関しては、昨年度同様、授業評価にも反映されたものと考えられる。

【学生】シラバス確認は、前年度に比べてほとんど変化がないといって差し支えないと考えられるが、まだ十分とはいえない。

これは多くの授業が資格、領域必須であるため選択の余地がそれほど大きくないことに起因すると考えられる。その他の項目についても顕著な変化はよく読み取れる。

【授業】全体的に平均的な評価であったが、昨年度から、一部の基礎科目で到達度別のクラス分け授業を始めた事により改善傾向は見られるが、全体に対する割合は低いので、学科平均の数値には大きな影響を及ぼすことはなかった。

【環境設備等】教室などの学習環境の評価は平均的であるが、参考書についての評価は依然として、高いとは言えない評価であったため、一層の充実が望まれる。

（上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。）

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までのと比較で記述する。）

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	3.8	0	0	0	6	36	14	【学生】 シラバスの確認についての評価に変化がないが、まだ高いとは言えないレベルである。これはほとんど授業が資格または領域必須であり、クラス分けした時間割によって履修を行っているため、確認の必要性を認識しにくいとめと考えられる。授業の出席についての評価は依然高く、栄養士養成施設に学ぶ者としての自覚のあらわれ並びに、各教員の指導のたまものと考えられる。実験実習科目での評価が高く、講義科目での評価が低い傾向にあるのは例年通りであるが、継続的に授業内でのレポート作成時における関連検索などに関する思考や手段についての指導もさらに充実させる必要がある。
2	4.1	0	0	0	0	21	35	
3	4.5	0	0	0	1	0	55	
4	4.1	0	0	0	2	18	36	
5	4.0	0	0	0	3	26	27	【授業〔内容〕】 全体的に平均的な評価であった。科目選択の余地が少ない訳であるが、本学科の目的は明確化されているため授業への取り組みの意識、姿勢が保たれていると考えられる。今後はさらに、授業への集中、予習・復習の取り組みにも力を入れるよう、折に触れた指導をしていきたい。
6	3.9	0	1	2	4	22	27	
7	3.9	0	2	2	3	18	31	【授業〔教え方等〕】 全体的に平均的な評価であった。授業内容の評価について、基礎科目で低評価になる傾向があったが、昨年度から進度別クラス分けの授業を行っていることから、来年度以降も継続的に観察し、適宜改善をしていきたい。
8	4.0	0	0	2	3	18	33	
9	3.9	0	0	2	6	20	28	
10	4.0	0	0	1	6	21	28	
11	4.1	0	0	0	3	23	30	【環境・設備等】 教室設備についての評価は平均的であった。一部の授業で低い評価が認められるが、学生数の多い科目では十分ではない環境で実施せざるを得ない状況があったと考えられる。参考資料については依然十分とは言えない状況であるので、継続的な充実を行う必要がある。
12	3.8	0	0	1	3	33	19	

3. 今後の方針

本学科は、資格関連科目が大部分を占め、クラスごとに履修が同じ科目が多い。また科目名から内容がほぼイメージできる等の理由により、学生はシラバスを十分に確認することなしに、授業に参加する傾向が強いと考えられる。授業に対する取り組みや出席状況は、概して良好であり評価は高い。これに対し、授業外での学習においては、レポートや課題が課されない科目で低い傾向が読み取れる。今後、資格必須科目、選択科目ともに、授業への能動的かつ積極的な参加と学習意欲の更なる向上を図ることを目指して、将来設計を含めた情報の提供を促進し、評価が向上するよう努める。また基礎科目群、資格関連の基礎科目の授業関連の評価がやや低い傾向にあることから、進度別クラスにおける指導体制の充実やカリキュラム改訂も視野に入れつつ改善を図りたい。今後も学生の学習意欲の向上につながる指導方法、環境整備などを学科内の教員個人に加え、科会等を通じて情報交換を活発化することで、行っていく。

1. 概評

昨年度同様に、今年度もほとんどの項目について3.5以上となっており、また多くの項目が4以上となっている。授業を積み重ねることにより、改善をはかってきた結果と考えられる。

（上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。）

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4≤	評価と対策
1	4.0	0	0	0	3	25	54	[学生] 多くの学生がよく出席していることがわかる。また、課題についても、文化創造学科全体で、授業外での学習をさせることについて話し合い、課題提出や、基礎ゼミでの指導などを行った結果、多くの学生が課題をこなしていることがわかる。 シラバスもよく確認して授業履修をおこなっている。
2	4.1	0	0	0	1	25	56	
3	4.3	0	0	0	1	11	70	
4	4.1	0	0	0	2	17	63	
5	4.1	0	0	0	2	14	66	[授業[内容]] ほとんどの授業がシラバスにのっとり行われ、授業内容が理解されている。授業の積み重ねにより、改善した結果と考えられる。
6	4.1	0	0	0	5	23	54	
7	4.1	0	0	0	6	19	57	[授業[教え方等]] 授業の教え方についても多くの授業が3.5以上となっており、ほとんどの授業は4以上の評価となっている。教員一人一人が今後もわかり易い授業実施に努めていく。
8	4.2	0	0	0	6	18	58	
9	4.1	0	0	0	5	20	57	
10	4.1	0	0	0	3	21	58	
11	4.2	0	0	1	1	13	67	[環境・設備等] 教室の広さについては、人数多数の場合には教室変更をすることによって評価が高くなっていると考えられる。また、参考図書についても、学科内に図書コーナーを設ける、積極的に推薦図書を利用するなどして、充実を図ってきた結果、高い評価となっているように思う。
12	3.9	0	0	0	3	37	42	

3. 今後の方針

全体的に高い評価となっている。文化創造学科のほとんどの学生が、よく授業に出席し、積極的に課題に取り組んでいることを受けて、今後も教員がそれぞれ、自分の授業を振り返り、配布資料を含めた授業内容を改善し、よりわかり易い授業実施を行っていくこととする。

1. 概評

学科平均は、問12の3.7、問1,4,9の3.9以外は、4以上であり、前年度の評価と大きな変化はなく、全般的には評価はほぼ横這いである。全般的、相対的に見るならば、評価は決して高いとは言えず、一般教養科目の多様性ゆえ、ばらつきもあると考えられる。学生の学習意欲を刺激できるように、履修の見取り図とも言える「知の羅針盤」を学生に活用させ、今後はシラバスに内容の難易度を示すなどの工夫を加え、基礎科目から段階的に履修し、学習意欲の向上と基礎学力が充実するような科目構成を検討していく。

（上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。）

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5≤ <3	3≤ <3.5	3.5≤ <4	4≤	評価と対策
1	3.9	0	0	0	7	65	49	〔学生〕 この問いグループの平均は、出席状況の評価が12項目中の最高値である。学生は良好な出席を維持している。 授業に積極的に取り組む評価が0.1上がっているので、学習の質の充実を目指して精進してほしい。 昨年度から一般教養科目は新分類に切り替え、その分類の視覚化として、また履修の見取り図として「知の羅針盤」というイメージ図を作成した。更に、今後はシラバスに内容の難易度を示すなどの工夫を加え、この「知の羅針盤」とシラバスを学生に活用させ、基礎科目から段階的に履修し、学習意欲の向上と学力の充実を強化する。
2	4.0	0	0	0	4	59	58	
3	4.4	0	0	0	0	2	119	
4	3.9	1	0	0	21	39	60	
5	4.1	0	0	1	3	33	84	〔授業〔内容〕〕 この問いグループの2項目は平均4という数値を維持しており、また平均値の数値分布(1≤～4≤)を見ても、2.5≤～<3は項目5、6に1人あるのみで、概ね良好と言ってよいと考える。
6	4.0	0	0	1	14	47	59	
7	4.0	0	0	1	12	36	72	〔授業〔教え方等〕〕 この問いグループは、今回どの項目も、前回、全学科とほとんど同じ評価であった。項目9を除いて4という数値を維持しており、また平均値の数値分布(1≤～4≤)を見ても、2.5≤～<3である項目は、ごく少数となっており、概ね良好と言ってよいと考える。 受講者数、教室の大きさが授業ごとに違うので、授業公開などの機会を利用して、更なる講義内容、講義方法の充実を図っていきたい。
8	4.1	0	0	1	11	30	79	
9	3.9	0	0	1	20	33	67	
10	4.0	0	0	1	9	36	75	
11	4.1	0	0	1	6	34	80	〔環境・設備等〕 学習環境を問う項目11は、昨年より0.2高いポイントであった。一般教養科目は、総じて受講生数が多いが、今期の配分が概ね適当であったとも考えられる。参考図書の充実も昨年に、引き続き課題であるが、学習図書、推薦図書の積極的な申し込みを各教員にお願いしていきたい。
12	3.7	0	0	0	16	86	19	

3. 今後の方針

昨年度、本学一般教養科目の言わば履修及び知の見取り図である「知の羅針盤」を作成し、学生に、履修計画の際に大いに利用してもらいたいと考えていた。今後更に、段階的な履修ができるように、意識づけのため「履修の心得」（仮）などを作成、配布し、ガイダンスの機会を設けること、入門編や、初級編などをシラバスに標記するなどの対応を検討し、取り組んでいく予定である。

1. 概評

評価全般については、良好である。或は辛い見方をすれば、「インフレ傾向」にあるとも言える。全項目の平均値は、4.0を超え、4.02と十分高い。2008年から昨年度の2012年の5年間の平均値と今年度前期の数値を比較してみると、すべての項目において、本年度の数値が過去5年間の平均値を上回っている。

但し、ここ2、3年は、どの項目の数値も殆ど変動がなく、ほぼ全ての項目の数値は高止まり傾向にある。その中で、シラバスによる授業内容の確認についての評価と参考図書の充実に関する評価は、いずれも3.7と、他と比べれば低い。前者については、外国語科目は入学時に既に履修言語が決定してしまっているため致し方ない面もある。いずれにしても、シラバスの確認と参考図書の充実については、引き続き各担当教員に協力を仰ぎたい。

（上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。）

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4≤	評価と対策
1	3.7	0	0	2	42	96	65	[学生] 1と2の設問は前回と同じ値。3と4に関しては、どちらも前回は0.1上回っている。 相変わらず、設問4の出席についての数値は、4.4と高い。この高い数値は学力向上の必要条件であることは間違いないので、「一層の授業の充実や工夫をせよ」という教員への呼び掛けとも取れよう。 シラバスによる授業内容の確認に関しては、より活用できるシラバスの作成を目指したい。
2	4.1	0	0	0	6	58	141	
3	4.4	0	0	0	0	21	184	
4	4.1	0	0	0	4	63	138	
5	4.0	0	0	0	8	82	115	[授業[内容]] 設問5については、過去5回4.0と3.9の間を行き来している。授業の理解度についての設問6は、2年半ぶりに4点台に戻ったが、果たしてこの数値が実態に即した数値であるか、甚だ疑問である。
6	4.0	0	0	2	18	63	122	
7	4.1	0	1	4	21	41	138	[授業[教え方等]] 設問7と10は、いずれも前回は0.1上回っている。後の二つは、前回と同じ数値。教員としてはこのような評価は喜ばしいことであるが、日ごろの教員間で共有する認識からは、少し乖離する値のようにも思われる。 板書等、授業の見せ方についての設問の数値は、3点台であるので、もう一工夫の必要があろう。 しかし、5年前の各設問の数値と比較すると、どれも0.2から0.3高くなっており、先生方の工夫の跡が見られる。
8	4.2	0	0	3	11	42	149	
9	3.9	0	0	3	26	58	117	
10	4.0	0	0	2	16	59	128	
11	4.2	0	0	0	5	37	163	[環境・設備等] どちらの設問の評価も、前回と同じ値。学習環境に対する評価が比較的高いのは、外国語担当教員からすると意外である。外国語としては、更に少人数クラスを目指したい。参考図書に関しては、今後とも推薦図書の紹介等を利用して、積極的に外国語科目に関連する図書の充実を図りたい。
12	3.7	0	0	0	55	103	46	

3. 今後の方針

- * 2年目以降の外国語科目の教養科目化(2単位化)によって、4年間の在学中、外国語学習を持続可能にするために、様々な可能性を探る。
- * グローバル人材育成推進事業の一環として本年度から導入された、人間文化学部日本語日本文学科および歴史文化学科1年生対象のベーシック・イングリッシュの授業運営方法(ペアやグループの会話練習やプレゼンテーションなどの発表活動による、英語運用能力の育成を図るもの)を、来年度は他学部他学科にも拡張するが、そのためにも本年度の試みの結果を分析・検討する。
- * 少人数クラス(1年対象クラス30名以内、2年生以上対象クラス20名以内)を今後とも維持していく。
- * 他の科目同様、外国語学習は授業内で完結するものではないので、学生が空いた時間などを利用して自習できる環境作り(例えば、様々なメディア、例えば語学教材、映画の利用できる外国語の自習センターのようなもの)が出来ないか、可能性を探りたい。

1. 概評

教職科目の殆どは教員免許取得のための必修科目であり、授業内容への関心や興味が初めから高いことは期待できない。しかし、教職（教員免許取得）を目指す学生であれば、一定の目的意識は持っているはずであり、それを踏まえて教員としての資質の基礎を培うことが必要である。

授業アンケートでの結果はいずれの項目でも 4.3 以上であり、全体としてはおおむね良好であると言える。この2年間の各期と同等もしくはスコアの向上が見られている。実働専任教員が 3 名となり、より充実した指導ができるようになったことの現れであると考えられる。

ただ個々の科目については課題のあるものもあり、教職課程全体での底上げを図るために、授業公開のさらなる活用や授業改善への取り組みが求められる。

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいっところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。

No	学科 平均	1≤ <2	2≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4≤	評価と対策
1	4.3	0	0	0	0	1	28	【学生】 昨年度、一昨年度と比較すると、横ばいないし向上している。問3の出席状況については高いスコアが出ており、問2の授業への積極的な取り組みと問4の授業外での学習についてもこれまでに比べやや高いスコアとなっている。 他方でシラバスの確認（問1）についてはこれまでよりは高いものの、他の項目に比べて低い。 学生への授業参加と、授業外での自主的な学習を促す取り組みは一定の成果を挙げていると言える。 シラバスは、授業の流れを示すものであり、授業開始時のみではなく、適宜シラバスを参照しながら、授業の流れや構成を学生自身が明確に掴むことができるようにする必要がある。
2	4.4	0	0	0	0	1	28	
3	4.7	0	0	0	0	0	29	
4	4.5	0	0	0	0	1	28	
5	4.5	0	0	0	0	1	28	【授業【内容】】 「シラバスに沿った授業」と「理解度」のいずれも 4.5 であり、おおむね良好と言える。 授業内容の理解（問6）については、3≤<3.5 の科目が一科目あり、改善を行う必要がある。「理解できる＝易しい」ということではなく、知的好奇心と教師としての資質を高める授業を目指していきたい。
6	4.5	0	0	0	1	0	28	
7	4.5	0	1	0	0	1	27	【授業【教え方等】】 平均は 4.4～4.5 となっているが、各項目が 4 以下となっている科目が若干ではあるが見られる。 授業の機材は多様化しているが、教師と学生との関わりの中で学生の学びを促すことが授業の目的であることには変わりがない。そして、学生が主体的に参加でき、考えることのできる授業が必要である。 そのために担当者の個々の努力・工夫と併せて、教職課程全体での取り組みを今後一層進めていく。
8	4.5	0	1	0	0	1	27	
9	4.4	0	0	1	0	3	25	
10	4.5	0	0	0	1	1	27	
11	4.5	0	0	0	1	3	25	【環境・設備等】 授業人数や教室の広さは概ね良好である。人数が少ないほど評価が高いとは言えず、大人数であっても授業の工夫を行うことで、補うことができる。空調についても昨年・一昨年のような問題は少なかった。 図書館の本については、授業で利用の仕方について説明をすることが必要ではないかと考える。
12	4.2	0	0	0	0	6	23	

3. 今後の方針

教職課程の指導は、授業を中心としながら、それ以外の様々な場で総合的・多面的に行う必要がある。

授業については、個々の担当者レベルでの取り組みを基本としながら、教職科目全体での改善の取り組みが一層求められる。定期的な担当者会や協議・研究の場を設定することを検討していきたい。

また教職科目の担当者の多くは非常勤講師であり、これまでも多大な協力を得てきたが、今後とも専任と非常勤の連携を強化していく。

さらに授業以外の場面では、採用試験の準備や個別の面接、教育実習への準備などが必要である。学生の主体的な活動を促しながら、教育支援センターなどとの連携を行い、多面的な指導を進めていきたい。